

皆の考えが「見える」授業を通して、伝える力と話し合う力を定着させる

～「付箋」を使って、発表しよう～

千葉県立 ○○○○ 高等学校 ○○ ○○ （現代社会）

## 1 はじめに

本校の生徒には一つの共通点がある。それは、自ら進んで学ぶ、調べる、発表する、ということを手としてしている点である。特に発表することについては一番の苦手意識を持っている。

このような現状を変えるため、本研究では発表に焦点を当て、これを改善する方法を考案する。生徒が発表をためらう理由は、「恥ずかしい」「緊張する」「こんなことを言ったら何と思われるか」等様々だと思うが、授業において皆の考えが「見える」ことはこれらに対する心理的抵抗を少なくする効果があるのではないかと思う。生徒の思考力や判断力を高めるためには授業において言語活動を充実させるところが重要だが、まずは生徒が取り組みやすい課題を取り上げ、発表の経験を積ませることで、さらに高度な学習内容に移行した際も積極的に意見を表明できる足がかりをつかみたいと考えている。

## 2 主題設定の理由

新学習指導要領現代社会には、目標として「現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い」とある。そして、特に「主体的に考察し」という部分において、その解説には「公民科が社会の変化に自ら対応する能力や態度を育成する観点から、生徒の主体的な学習を重視していること」とある。しかし、前項でも触れているが、本校生徒はこの「主体的に」「自ら」を苦手としており、特に「自ら進んだ意見の表明」である「発表」については、ほとんどの生徒は非常に苦手としている。このことは事前アンケートの結果からも伺える。

事前アンケート（p 10 グラフ 2）の結果から注目すべき点は「発表はしないが、自分の意見を頭の中で考える」ことが得意と回答した割合が66%にも上ることである。しかし、実際に「自分の考えを記入する」ことが得意な生徒は22%であり、「他の意見に対して質問する」は24%、「自分の考えを発表する」ことが得意な生徒はわずか19%である。つまり、彼らは授業内容について考え、それぞれが意見を持っているが、自分の考えを記入や発表など、表明することを苦手としているのである。

以上の結果から、毎時間、個々の生徒が持つ様々な意見が無に帰していくと同時に、他の人がどのような意見を持っているのかも知ることができない、という問題が浮き彫りとなった。

そこで、この問題を克服するため、発表することについて非常に苦手な意識を持った生徒たちに抵抗感なく発表させることを目標とし、その方法としての付箋を使用する授業を実践する。

——付箋を使用する利点——

- ・ 通常の発表とは異なり、自分だけが注目されない。また、意見を数行で表せばよい。
- ・ たくさんの意見を持つ場合、付箋を複数使用し、様々な意見を表すことができる。
- ・ 全ての意見が視覚的に記録、保存されることで、授業者も生徒も容易に何度でもそれら意見を見返すことができる。
- ・ 生徒個々の知識や考えを把握することができるので、授業者は彼らの知識が正しいか間違っているかなどを確認し、修正や説明を加えることができる。

### 3 研究目標

本研究における目標は、発表することに対しての積極的な態度の育成にある。通常、表に出ない各自の意見や、知ることが出来ない他者の意見を、彼らが苦手とする発表という手法を取らなくても表明させることが可能であれば、そこから、公民的資質として必要な有意義な話し合いに発展させることも可能となる。

この目標を達成するために、正解が一つではなく、意見が分かれるテーマを設定し、付箋を使用して意見を表明させることによって、様々な立場や見方を理解し、現代社会の学習における生徒の積極的、主体的な意見の表明を達成するという生徒の変容を促す。また、これら付箋に記された積極的、主体的意見を記録、集約していくことで有意義な話し合いの場を形成する。

そして、この積極的、自ら進んだ意見の表明と有意義な議論が達成されたか否かを、授業後アンケートや授業態度の変容によって検証する。

### 4 年間指導計画への位置づけ

学習内容	付箋授業 全6回（7時間）実施
第1編 現代に生きる私たちの課題	
第2編 現代の社会生活と青年 第1章 現代社会の特質 第2章 青年期の意義と課題	2章：あなたにとって働くとはどのようなことか（第1回） 2章：沈みかけた船から、自分だけ逃げ出した船長の行動について、賛成か反対か（第2回）
第3編 現代の経済社会と経済活動	
第4編 現代の民主政治と民主社会 第1章 現代の国家と民主政治 第2章 日本国憲法と国民生活 第3章 民主社会の倫理	1章：あなたがリーダーならどうする 実践記録1（第3回） 2章：万引きを無くすために、誰が何をしたらよいか（第4回） 2章：死刑制度に賛成か、反対か（第5回）
第5編 国際社会の動向と日本の役割 第1章 国際社会の動向 第2章 国際経済の問題と日本の役割	1章：戦争の原因は何か、解決策は何か 実践記録2（第6回、2時間実施）

写真：付箋授業の終盤（付箋授業第4回より）



## 5 付箋授業の発展段階

最終的な目標を発表とし、そこに至る過程を以下の表のように5段階に区分した。

表1：付箋授業の発展段階

<p>第1段階</p>	<p>授業内容：あなたはどのような意見を持つか。</p> <p>「あなたにとって働くとはどういうことですか」という問いに対して自分の意見を付箋にまとめ授業者が黒板に貼付する。それを見て意見を出し合う。(付箋授業第1回)</p> <hr/> <p>授業目標：意見を付箋に記入する。</p> <hr/> <p>生徒への説明内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1枚の付箋には1つの意見のみ記入する。また、意見が複数あれば付箋を何枚使用してもよい。</li> <li>・付箋の裏に必ず出席番号を記入する。</li> <li>・どのような意見でもよいが、誹謗中傷や不適切な内容は記入しない。</li> <li>・記入された付箋は授業者が回収、誰が何を記入したか、他者は知ることができない。</li> </ul> <hr/> <p>授業者の働きかけ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記入内容は原則として肯定する。自己肯定感が弱い生徒や考えを記入することを嫌う意識を払拭する。</li> <li>・付箋記入内容について、明らかな誤りがある場合は、記入する意欲が下がらないよう留意しながら訂正する。</li> <li>・内容を知られたくないという生徒のため、授業者が付箋を回収する。</li> <li>・発問は、生徒が身近に感じ、記入し易いものとする。</li> </ul>
<p>第2段階</p>	<p>授業内容：この内容に関して賛成か反対か、自分ならばどうするか、それはなぜか。</p> <p>「イタリアでの大型客船座礁事故の際、船長がとった行動」と「JR新大久保駅でホームから転落した人を助けようとして2人が死亡した」事例をあげ、賛成か反対か、自分ならばどうするか、付箋で意見表明する。(付箋授業第2回)</p> <hr/> <p>授業目標：賛成、反対どちらかを選択する、理由を書く、自ら付箋を貼る、発言する。</p> <hr/> <p>生徒への説明内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成は青色、反対は赤色の付箋に記入する。</li> <li>・記入した付箋は自分で貼る。</li> <li>・賛成か反対かその理由を記入する。</li> <li>・自分の考えがどれほど変化しても問題なし。</li> <li>・配布された資料を読みこなす。</li> <li>・思ったことは、その場で発言する。但し、付箋同様、不適切な内容の発言はしない。</li> <li>・可能であれば挙手し、授業者に指名された後、意見を発表する。</li> </ul> <hr/> <p>授業者の働きかけ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成か反対、意見を明確にするために、また、発言し易いよう、生徒の感情に働きかける内容とする。</li> <li>・発言を促すため、発言を可能な限り褒める。但し、発言に明らかな誤りがある場合は、発言の意欲が下がらないよう留意しながら訂正する。</li> <li>・配布する資料について、重要箇所にアンダーラインをするなど、予め文章自体を加工する。</li> <li>・自ら付箋を貼るために、「助けて、手伝って」など、積極的に、授業者が働きかける。</li> <li>・社会の問題に興味・関心を持たせるために、現実起こったニュースから、彼らの想像や常識を越えた題材を選択する。</li> </ul>

第 3 段 階	<p>授業内容：複数あるどの意見に賛成か、それはなぜか、記入する。</p> <p>『沈黙の艦隊』第16巻（かわぐちかいじ 講談社）中の党首討論（漂流中の生存者の中に伝染病者が出たが、あなたがリーダーだったらどうするか？）を用いて考えさせる。（付箋授業第3回）</p> <p>-----</p> <p>授業目標：様々な立場からの意見を考える、話し合うことができる。</p> <p>-----</p> <p>生徒への説明内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数あるどれかの意見に賛成する。但し、どの意見にも反対の場合は理由を記入し、代案を立てる。</li> <li>・自分の考えをまとめ、他の意見に耳を傾け、皆でどうすればよいかを考える。</li> </ul> <p>-----</p> <p>授業者の働きかけ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な立場で、考え、発言ができるよう、配付資料はいくつかの異なる意見を提示できるものとする。</li> <li>・生徒の発言を促すために、本時においては授業者の意見を述べず、付箋の結果のみを伝え、自分たちだけで決定したという一体感の形成を促す。</li> </ul>
第 4 段 階	<p>授業内容：この問題を解決するためには、誰が、何をすればよいか。</p> <p>「万引きをなくすためにだれが何をしたらよいか」という身近な問題を取り上げ、皆で解決策を考える。（付箋授業第4回）</p> <p>-----</p> <p>授業目標：解決策を作る。</p> <p>-----</p> <p>生徒への説明内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を述べ合い、皆で解決策を作り上げる。</li> <li>・解決策として理想的なものは、多数のためになる解決策でありながら、少数の利益も考慮した意見。</li> <li>・現実の問題は要因が1つではなく複雑に絡み合っている場合が多いので、解決策は1つではない。</li> </ul> <p>-----</p> <p>授業者の働きかけ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの身近な問題を提示することで、自分にも解決策を作ることができるという自信を持たせる。</li> <li>・皆で解決策を考えたと意識を持たせるため、授業者は、生徒の発言や付箋について、否定的な発言をせず、生徒の発言や付箋内容を繰り返し、皆に伝わるよう配慮する。</li> <li>・よほどの不適切な発言以外は話し合いに介入しない。</li> </ul>
第 5 段 階	<p>授業内容：</p> <p>この内容に関して賛成か反対か、自分ならばどうするか、それはなぜか。</p> <p>「秋葉原の殺傷事件」を題材に死刑制度の是非を付箋だけでなく、発表によって考え、議論する。（付箋授業第5回）</p> <p>-----</p> <p>この問題を解決するためには、誰が、何をすればよいか。</p> <p>「戦争の原因は何か」「解決策は何か」を付箋だけでなく、発表によって考え、議論する。（付箋授業第6回）</p> <p>-----</p> <p>授業目標：発表する。</p> <p>-----</p> <p>生徒への説明内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を挙手をして、発表する。</li> <li>・他の発表を聞いて、感じたことを挙手して発表する。</li> </ul> <p>-----</p> <p>授業者の働きかけ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表は、必ず挙手し、授業者に指名された後、意見を述べることを確認する。</li> <li>・発表ができないことを否定しない、付箋に記入しても良い。</li> <li>・発表した意見は例え内容が拙かったとしても、授業者は発表したこと自体を評価し、発表は価値があることだと認識させる。</li> </ul>

6 授業実践記録 (少人数授業を展開する11名1クラス)

(1) 実践記録1 あなたはどの意見に賛成するか、それは、なぜか。<付箋授業 第3回>

ア 実践記録

(ア) 単元名 国民主権と議会制民主主義

(イ) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
政治分野の導入として、選挙制度や政治の仕組みについて興味・関心を持つ。	政治とは何かについて考え、自己の意識を形成する。	提示された資料や他の意見を的確に読み取ることができる。	多数決の特徴や限界について理解することができる。

(ウ) 配布プリント (かわぐちかいじ『沈黙の艦隊』第16巻, 講談社より)

資料1

司会者：

あなたはどうかという質問です。**あなたの乗ったゴムボートが遭難し、漂流しています。生存者は10名。**救助を求めてさまよっています。ところがこの中の**1人に伝染病感染が確認**されました。**感染すれば死に至る病**であることも判明しました。放置しておけば9人全員が感染する恐れがあります。**ボートが救助される見込みは今のところありません。**あなたがこの10名のリーダーだとしたら、**どんな行動をとりますか。**

資料2

A党党首：感染すれば全員が死ぬと仮定してならば、まず自分が感染した本人である場合、自分以外の者からリーダーを選出し、私はその人間の指示に従います。そして感染者が自分以外の場合・・・なるべく早くその感染者をボートから下ろします！私はこの行動の全責任を負います。

司会者：それは殺すという意味ですか？

A党党首：**1人でも多くの生命を守ること・・・それが政治です。**

B党党首：いかなる極限状態であれ少数を殺すことはできん！ならば全員死すべきである！！

**政治とは神の代理行為ではない！**そして、もし自分が感染者ならば迷うことなく私は海に飛び込み己を始末する。

司会者：それでは少数を殺さないという理念に反しませんか？

B党党首：いかなる状況においてもわれわれは公人なのだ。政治家に私(わたくし)などあり得ん！」

C党党首：私はまず全員にその真実を知らしめ、そして**全員による話し合いを求めます。**

司会者：話し合っても結論が出る保証もないし、時間もありませんが？

C党党首：**全員従うという了解を得た上で多数決の議決を行う。政治とはルールを設定し、それを守る**ということだ。感染者が自分であれ、他人であれ同じだ！

D党党首：**私は人間であることをやめない！10人全員が助かる方法を考えます！**

司会者：それはどんな方法ですか！？

D党党首：わかりません・・・だが、考え続けます！私は信じています。

(エ) 授業記録：発言が多かった箇所を抜粋 <付箋枚数 23枚 発言 34回 発表 0回>  
特に発言の多かった生徒 4人を A～D, その他 2名を E・F とし, p 9 まで同一人物

	指導者の発言及び学習内容	生徒の発言及び活動
導入	「今回の付箋授業では、政治について考えてみましょう。皆さんは政治と聞いて何を思い浮かべますか。」	C：政治は選挙 E：わからん、知りたくない、めんどくさい D：総理大臣がやる
展開 1	<b>付箋質問 1：資料 1 について、あなたならどうするか</b>  「付箋の結果は、海に感染者を流すが 7 枚、自分が感染者なら降りるが 4 枚、そのままが 4 枚です。もし、皆さんがこのボートに乗っていたら、そして多数決に従うならば、感染者は海に流され、死ぬという結論です。」	付箋記入 A：これは難しい、自分が感染者かどうかでも考えが変わるよね E：いや、誰が感染者だとしても海に流すべき F：殺人罪にならないのかな C：結局助からないなら、一人流しても仕方ない E：いや、俺なら助かるから C：リーダーにはなりたくないな D：この話は政治と関係ないだろ A：多数決はちょっとやばいかも
展開 2	<b>付箋質問 2：資料 2 について、どの党首の意見に賛成ですか</b>  「付箋の結果は A 党 6 枚、B 党 2 枚、C 党 1 枚、D 党 0 枚でした。さて、このシーンは選挙前の党首討論です。この後、作品の中で選挙が行われ、投票が行われました。どの人物の政党が勝ったのでしょうか。」	付箋記入 B：やっぱり付箋が多かった最初の人の方が勝つ A：どの意見も納得できるから、難しい D：わからない E：党首討論って何だ C：これ、マニフェストってやつか
まとめ	「答えは A 党党首と B 党党首の政党が 160 議席で同数、C 党党首が 128 議席、D 党党首が 64 議席でした。最終的に、A 党党首が新内閣総理大臣になりました。」  「みなさんはこの結果にどうやら納得していないようです。また、皆さんの発言を聞くと政治に少し興味が出てきたようにも感じます。」  「では、次回から国会について勉強します。」	A：同数ってありえないだろ、やっぱりマンガ E：なんだよそれ、おかしいだろ、この結末 B：総理大臣って、選挙で決まるの C：だいたいなんで、こんな内容で選挙やるのか状況がわからん D：政党って何だ A：政治って、国会とか内閣とかでしょ

## イ 考察

本時は、付箋授業の第 3 段階として、まず、各自がそれぞれ解決策を考え、次に、解決策を提示し、どの意見に賛成か理由を付箋に記入させながら問いかけた。

これは、現実の社会問題に対する解決策を皆で考える授業への足がかりとするためである。現実の社会問題を議論し、解決策を作り上げるためには様々な角度からの見方、考え方が必要となる。また、多数決で結論を 1 つに集約することもある。そのために、この授業のまとめでは、敢えてフィクションの結末だけを皆に提示し、これを 1 つの結論として終了した。

生徒たちからは、「結末はやっぱりマンガだよ。」「同数なんてわけないだろ。」など、現実の結末としては承認しにくいという意見が多勢を占めた。

しかし、授業内での生徒の発言はかなり活発化しており、特に、政治に全く興味がないと述べていた生徒たちに、多数決の危うさや政治システムについて興味を示す発言が多々見られたことは、大きな成果であった。

(2) 実践記録2 発表しよう <付箋授業 第6回 2時間で実施>

ア 実践記録

(ア) 単元名 国際組織の役割

(イ) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
戦争の抑止について考え、意見を持つことができる。	資料や他者の意見から的確に自分の考えを現すことができる。	提示された資料を的確に読み取ることができる。	国際連合の目的や設置されている組織を知ることができる。

(ウ) 授業記録 発言が多かった箇所を抜粋 <1限 付箋87枚 発言34回 発表0回>  
<2限 付箋48枚 発言21回 発表1回>

	指導者の発言及び学習内容	生徒の発言及び活動
導入	「前回に引き続き、発表を目標として、頑張ってください」	A：発表は無理、緊張する C：勘弁してください
展開	プリント1配布 「プリント1を読んでください。」 <b>付箋質問1：なぜ、戦争は起こってしまうのか</b> 「今回は沢山付箋が出ましたね、プリントにも書かれています、戦争の原因は沢山ありそうですね。」 <b>付箋質問2：戦争を起こさないためには、どうすればよいか</b>  「戦争を抑止するための組織を知っていますか。」	<プリント1：ウェストファリア会議・勢力均衡から集団安全保障へ・ウィルソンの14か条> 付箋記入 B：次から次へとアイデアが浮かぶんです C：はい、はい Bはすごい A：それにしても、沢山あるね 付箋記入 C：絶対、無理、全滅しかない A：確かに非現実的な話だ B：いや、そんなことはない B：国際連盟です A：国際連合じゃなかった B：どっちでもいいよ C：いや、よくないだろ
1	プリント2配布 「国際連合ですね。では、その組織図のプリントを配布します。よく見てください。」  「なぜ、こんなに沢山の組織があるのでしょうか。」 「銀行や安全保障など知っている言葉があるでしょう。」 「皆さんが質問1で記入した付箋を見直して下さい」 「そうですね。これだけ様々な活動をしているいちばん大きな理由は、戦争を防ぐ為です。」 「質問1の付箋には、戦争の要因を皆さんが考えてくれました。戦争が起こる要因は様々あるのです。」	<プリント2：国際連合組織図> D：わからんし、読むの疲れる C：こんなに難しい漢字ばかり並んでいて、意味わからん A：そうか、戦争を防ぐためだ B：何が D：もうやだ、全く読む気なし C：しかし、読むのはやっかい B：そうか、だからこんなごちゃごちゃいっぱいあるのか。なるほど、国連も深いね～

	付箋質問3：戦争を起こさないためにあなた個人は何か出来るか	付箋記入 A：難しすぎる B：いや、出来ることはたくさんある
	付箋質問4：戦争を無くすために日本はどのような政策を作ればよいか、世界的な対策は何か	付箋記入 C：無理だよ、俺が何しても関係ない
展 開 2	「誰か挙手して、意見を発表してみませんか。」  「最後の最後で1人発表者が現れました。これに続く人はいませんか。」	B：はい、発表します C：お、ついに B： <u>＜発表＞やはり、世界全体で、ともかく話し合うしかないと思います</u> C：すごいじゃん、発表してる B：ついに発表できた D：だめだ～ C：俺も駄目だ～ B：もうだめだ～次はない、すげえ緊張した 教室内静寂
	「発表者はいませんね。しかし、これまでの授業で皆さんは沢山、内容の濃い付箋を記入しました。また、発言を多くしてくれた人もいました。これも立派な意見の表明です。自信を持っていいですよ。」	D：表明ってなんだ A：何かを表すことだよ、たぶん A：発表って言われると固まっちゃうから C：発表って言われなきゃ喋れるのに
ま と め	「戦争が無くなる特効薬は、ないのかもしれませんが。しかし、戦争を無くすにはどうしたらよいか真剣に考える必要はありますね。」  「では、次回からは国際連合について、さらに詳細に勉強していきましょう。」	A：戦争は嫌だからな C：考えることは大事な気がしてきた D：難しくて、わからん C：でも戦争はなくならないよ、無くしたいけど B：僕はいつも平和について色々と考えています

## イ 考察

本時は2時間で実施した最後の付箋授業である。目標を「発表しよう」としたが、これまでの実践を振り返り、授業者自身が「挙手し、指名され、意見を述べる発表」に意識しすぎないよう留意し、付箋内容と発言の充実を優先した。これは前回までの付箋授業において、発表を幾度か促した際に「発表という言葉自体が嫌だ。」という生徒の発言と、多数生徒がこれに無言で頷いていた状況を考慮したからである。この発言の際、授業者がさらに「言葉自体が嫌いとは、どのような意味か。」と問いかけると、彼らの答は「トラウマ。」「昔、挙手して発表したら、皆にバカにされた。」というものであった。雑談のような発言では、様々な意見を表明できるようになった彼らではあるが、「挙手し、指名され、皆に注目される発言」である発表への強い抵抗感を感じた。一方で、生徒たちの発言や付箋記入は活発化しており、また、その内容も評価できる内容となっている。そうであるならば、最後の授業ではあるが、発表のみに意識を集中する必要はないと考えた。

授業終盤、1度だけ発表を促すと、発表者が1人現れた。授業者は彼を褒め、「彼に続く発表者はいないか。」と問いかけたが、残念ながら「発表は無理。」「発表って聞くと、固まる。」という発言が相次いだ。発表者は発表直後「最後の授業だから、勇気を出して頑張ってみた。」と述べていた。

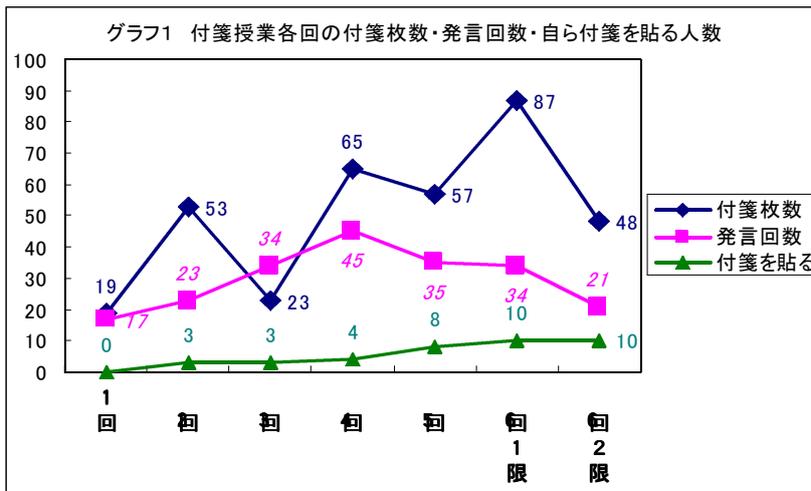
7 付箋授業での生徒の変容に関する分析（文章は原文のまま）

	A	B	C	D
実践 1	<b>質問1：漂流ボートで感染症発生。あなたなら、どうしますか。</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が伝染病に感染していたら、自分はいずれ死ぬのだから他人に迷惑をかけるのはイヤだから自分だけ捨ててもらおう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もし自分が感染したら海に飛び降りる。沢山死ぬより1人死んだほうがよい</li> <li>病人を捨てる。9人の人を生かすため</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>救助されないなら海に感染者を流す</li> <li>自分が感染者なら降りる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なるべく大人数を助けたいから病人はあきらめる</li> </ul>
実践 2	<b>質問2：漂流ボートで感染症発生。どの意見に賛成ですか。</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>A党党首</li> <li>この意見が当たり前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A党党首</li> <li>後に残った9人の意思統一ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A党党首</li> <li>1人でも多く生き残る必要があるから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A党党首</li> <li>なるべく多く助けたいから</li> </ul>
実践 2	<b>質問1：戦争は何故、起こるのか。</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>宗教などの問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>尊厳</li> <li>土地</li> <li>水</li> <li>神の意思</li> <li>民族</li> <li>金</li> <li>見た目</li> <li>圧制</li> <li>宗教</li> <li>飢饉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軍力があるから</li> <li>領土が欲しいから</li> <li>宗教の違い</li> <li>秩序という名の侵略</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国同士で決め事を守らないから</li> </ul>
	<b>質問2：戦争を起こさないためには何をすればよいか。</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>武器を全て消す</li> <li>みんなで握手</li> <li>世界を一つにすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛</li> <li>夢を追える国をつくる</li> <li>武力の絶対放棄</li> <li>国際社会で多数決の導入</li> <li>情報統制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争はジャンケンで決める</li> <li>兵器を捨てる</li> <li>一番強い国(アメリカ・ロシア)がまとめればよい</li> <li>先進国が仕切る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料を無駄にしない</li> </ul>
	<b>質問3：戦争を無くすために自分には何ができるか。</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>人を傷つけない</li> <li>LOVE and Peace</li> <li>宗教のトラブルを減らす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな声を発する</li> <li>愛することができる</li> <li>命を大切に</li> <li>自分の知っている事を伝える</li> <li>知る</li> <li>祈る</li> <li>ネットに書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>兵器をよく知る</li> <li>信頼に値しない政治家を選ばない</li> <li>平和を学ぶ</li> <li>兵器を作らない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料を無駄にしない</li> </ul>
	<b>質問4-①：戦争を無くすために、日本にはどのような政策が必要か。</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>LOVE and Peace</li> <li>他の国は不干渉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>悲しみの少ない社会</li> <li>多数決ではなく、全員が幸せになる国を作る</li> <li>軍事強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲の良い国と積極的に協力する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずは領土問題をどうにかする</li> </ul>	
<b>質問4-②：世界的な対策は何か。</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>LOVE and Peace</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軍事的均衡</li> <li>敵対する国と話し合う</li> <li>民間企業の経済的影響力を強める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宗教問題は無くならないと思う</li> <li>アメリカが世界を仕切れればよい</li> <li>日本が平和の中心で仕切れればよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源の共有</li> </ul>	

全ての付箋内容から見た授業者の率直な感想として「これだけのことを考えているとは」と感動した。付箋授業以前にも、稀に的を射る発言があったが、個々の生徒が持つ意見を知る機会はほとんどなかった。特に、非常に寡黙な生徒や常にお喋りな生徒が、付箋授業においては誰もが平等に自分の意見を表し、個々が思案している様子をはっきりと知ることができた。全ての意見が練りに練られたものではないが、自分に興味がある内容については、理論的な意見の表明を見ることが出来る。また、言葉も拙く偏った意見も多々あるが、現在の社会の問題に関して、ある面や立場からの的確な答えを記入している。全体として、実践を重ねるごとに、各個人が多面的に事象を捉え、様々な角度から意見を表せるようになったと考えられる。

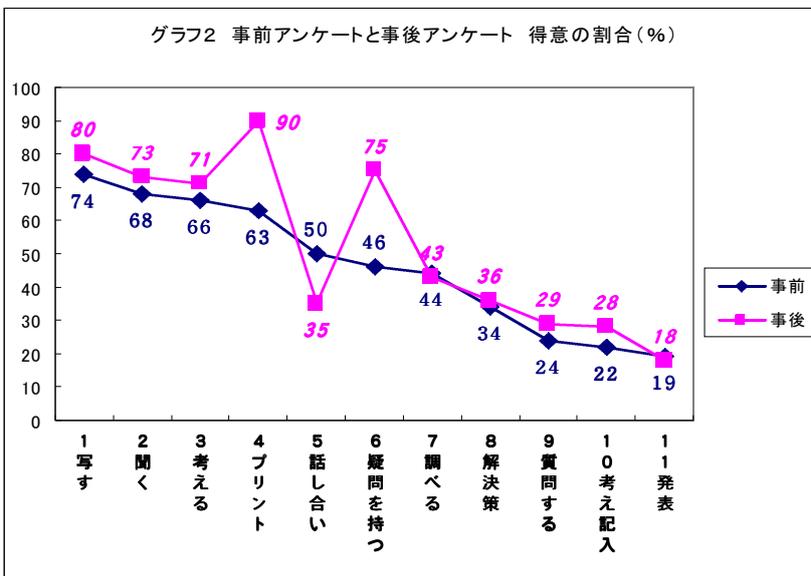
## 8 付箋授業に関する分析

(1) 付箋授業各回の付箋枚数・発言回数・付箋を貼る人数 (11名のクラスを抽出)



(2) アンケート結果

問1 学校の勉強方法について、事前・事後アンケートより「得意」の割合 (%)



1. 黒板の内容を写す
2. 先生の説明を黙って聞く
3. 発表はしないが、自分の意見を頭の中で考える
4. 内容をプリントに記入する
5. 友だちと話し合い進めていく
6. 質問はしないが、他の人の意見に疑問を持つ
7. グループで調べ学習をする
8. 皆で解決策を作りあげる授業
9. 他の人の意見に質問する
10. 自分の考えを記入する授業
11. 自分の考えを発表する

問2 付箋授業を振り返って

表2 付箋授業の授業内容と活動についての事後アンケート 興味あり・得意の割合が高い順 (%)

順位	授業内容	興味		付箋授業を振り返って	得意	苦手
		あり	なし			
1	今の世の中に起こっている出来事を知る	97	3	他の人の付箋 (意見) を見る, 知る	86	14
2	働くことについて真面目に考える	95	5	プリントの文字が多くても読む	71	29
3	命について考える	93	7	自分で付箋を模造紙に貼る	57	43
4	正しい行いや正義とは何かについて考える	81	19	この立場だったらどうするかを考える	52	48
5	日本の法律について考える	79	21	他の付箋を見て, もう一度考える	50	50
6	国際平和について考える	71	29	自分の意見を付箋に記入する	43	57
7	選挙や多数決について考える	43	57	自分で解決策や対策を作る	36	64
8	内閣や総理大臣について考える	41	59	自分の思ったことをその場で発言する	21	79

問3 付箋授業で良かった（楽しかった）点と悪かった（楽しくなかった）点。

付箋授業の良かった点と悪かった点（文章はママ、アンダーラインは筆者による）
<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な人がどういう意見を持っているかが、よくわかった。</li> <li>・色々な知識を学ぶことで世界が今、どういう状態なのかということが、再確認できた。また、こういう授業をやってみた<u>い。皆で考えることができた。</u></li> <li>・回りの意見を知れるのと自分の意見を教えるのが一度にできる楽しく授業ができた、<u>納得できた。</u></li> <li>・<u>他の人の意見が見える、自分も他人に見せることが可能、答えが無いので考えないと出てこない。</u></li> <li>・ふせんの色分けは、いいアイデアだと思う。</li> <li>・答えがない、あるを求めない、<u>自分を出せる</u>、個の確立。</li> <li>・自分の答えだけでなく、他の人の答えを見て、考えを直したりすることが増えた。</li> </ul>
<p>悪かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のあまり無い、内容が良く理解できないなどで自分の考えをまとめるのに時間が足りなかった。</li> <li>・<u>自分の意見を出すのが苦手</u>なので質問によっては困った。</li> <li>・<u>資料を読んでも質問に対して意見が出せない</u>。資料を読むのに時間がかかった。</li> <li>・プリントの文字数が多い。</li> <li>・考えをまとめるのが苦手なため発表に間に合わない、考える時間をもう少し長くして欲しい。</li> <li>・やらない生徒が出た、変な意見に腹が立った。</li> </ul>

（事前アンケート：実施期間 平成23年10月・平成24年6月 対象生徒 83名

事後アンケート：実施期間 平成24年10月 対象生徒 40名）

（3） アンケートや授業に向かう姿勢などからの分析

まとめて分析すると、まず第一に、付箋授業では、通常授業では決して現れない、個々の持つ意見が大量に明らかになった。勿論、全ての意見が有意義なものではなく、意見とも呼べないような内容も含まれている。しかし、それでも友達が持つさまざまな意見を知ることを生徒たちは楽しいと感じ、自分の考えを直すきっかけと捉えるなど、他の意見に触れること自体を評価し、自らの意見を吟味し、再構築している様子が随所で伺うことができた。また、正解が1つではないことを知る上でも他の生徒の付箋が十分に役立っていた。

次に、事前・事後アンケートを比較（グラフ2）する。まず注目すべき点は「他の意見に疑問を持つ」割合が顕著に増加している点である。これまで、自分の意見は持っていたも、他者の持つ違う角度や見方からの意見に触れる機会が無かったが、付箋授業においてこれらを目の当たりにしたことが増加の要因であろう。

一方で、「友だちと話し合いながら進めていく」ことを得意と感じる割合が減少している（グラフ2）。実際に付箋総枚数は、全付箋授業で352枚であり、1人平均1時間で4～5枚の付箋を記入した。また、挙手し指名された発表こそ1回のみであったが、その場で意見を述べる発言は増加した。それでもなお、彼らは得意でないと感じる。理由としては、付箋授業内で話し合いに参加して自分が苦手なことに改めて気づいたことや話し合いの核となる重要な意見を出して褒められているのに自分ではこれを肯定できない自己肯定感の低さ（生徒を褒めた際の返答「褒められる事はしてない。」「うまく出来てなどいない。」）などが考えられる。話し合い授業を経験してみて、楽しさを知った反面、その難しさや奥深さも知り、結果として尻込みしている様子が授業から強く感じられる。

最後に、授業プリントについては実践6回で計23枚を配布した。それら全てを読みこなした生徒は多くはないが、プリントを読むのを厭わない割合が高くなったのは大きな成果である。

## 9 発表に関する分析

問4：付箋授業を受けたことで、授業中に発表することへのあなたの考えは変わりましたか。

付箋授業後の発表に関する意見 (文章はママ、アンダーラインは筆者による)
変わった 総数7人
・もう少し慣れれば、 <u>発表出来るかもしれない</u> と思った。
・改めて、 <u>手を上げるのは抵抗はあるが</u> 、その場で言うなら出来る。
・もう少し <u>勇気が出れば</u> もしかしたら出来るかも。
・思ったことをその場で言うのは出来るようになったが、 <u>発表は多分ずっと無理</u> 。(他、2名が同意見)
変わらない 総数33人
・以前から、人の前に立って発表することが苦手だから。あと <u>注目されたくない</u> から。(他、12名が同意見)
・ <u>人の意見は自分の考えより真つ当で正解に近いと思ってしまう</u> から。
・授業中に発表したことがない、 <u>自分の意見は、発表するような内容じゃない</u> 。
・ <u>あがり性</u> だから。
・ <u>目立つのが恥ずかしい</u> から。(他、14名が同意見)

発表に関しては、厳しい結果となった。研究当初、授業者は「付箋記入→発言→発表」という「続く流れ」を想定していた。しかし、これは全くの誤りであり、授業実践内での彼らの発言(p8考察)からも推測できるが、生徒の意識は「付箋記入→発言<高い壁>発表」であった。このため、付箋枚数も発言回数も増加するのに対して、発表だけがゼロという状況が継続していった。授業後アンケート(問4)においても、「人の意見は自分の考えより真つ当で、正解に近いと思ってしまう」「自分の意見は、発表するような内容じゃない」という、自信を持っていない生徒の心情や「恥ずかしい」「注目されたくない」という意識の根の深さ、発表という言葉自体が生徒たちに与える、ある種の緊張感を再認識させられた。そのような中で唯一、発表した生徒に「何故、発表できたのか、発表できなかった時と具体的に何が違ったのか。」と尋ねると、「何か、あれだけ発言していたら、挙手するぐらい何てことないと思えた。皆も楽しそうに授業を受けていたし、皆に受け入れてもらえるような雰囲気があったから。」と述べていた。「受け入れてもらう」これが、高い壁を越えるためのキーワードとなるかもしれない。

## 10 おわりに

今回の、発表を目標とする研究を振り返ると、確かに発表は唯一1回のみであった。しかし、発表ではなくとも、価値を持つ内容の付箋が多数存在し、素晴らしい発言も随所で見られた。そして付箋や発言を生徒たちが興味を持って見て、聞いていたという事実、これらの意見を自分に反映させ、次の自分の意見を形成していったことから、一連の授業は民主的な話し合いの場として成立していると考えられ、本研究の成果としたい。

最後に、この研究にあたり、ご指導下さった、教育振興部指導課の指導主事並びに教科指導員の先生方に厚く御礼を申し上げます。

引用文献 参考文献 参考URL

- 1 引用文献：かわぐちかいじ『沈黙の艦隊』第16巻 講談社 1992年 p50～p66より一部抜粋
- 2 参考文献：川喜田二郎 『発想法』中公新書 1967年 『続・発想法』中公新書 1970年  
A. F. オズボーン 上野一郎訳『独創力を伸ばせ』ダイヤモンド社 1958年
- 3 参考URL：沖縄大学吉川研究室『KJ法マニュアル』 株式会社バリスタ『ブレインストーミングのやり方～基本編』 ベネッセ教育研究開発センター『第4回学習基本調査報告書(高校生版)』